

令和2年度 年間指導計画を見直す際の参考資料

小学校 第2学年 「国語（教育出版）」

220時間（70%）

週	重点に置く指導事項	単元名	教材名	時間数	留意点
二上					
1	Cエ 知・技①ク Bアウ 知・技①ク Aウ 知・技①イ	ことばと であ おう	ちいさい おおきい	1	・声を出して、詩の音読を楽しくすることを中心の活動とする
			つづけて みよう	2	・「日記のたね」となる材料を身の回りの出来事から見つけて、日記を書くことを中心の活動とする
2	Cイ 知・技①ク 知・技②ア Aエ 知・技①ア 知・技①エ	一 どうじょう 人物の した ことに 気を つけて よもう	声の ものさしを つかおう	2	・伝えたい相手の人数や場の様子で声の大きさが変わることを理解させる（状況によって時期を入れ替える）
			「えいつ」	11	・登場人物の行動や会話などから、物語の大体の内容を捉えることを中心の活動とする
			ひろい 公園	2	・大事なことを落とさずに聞くことを中心の活動とする
			漢字の ひろば① 画と 書きじゅん	1	・書写（※1）の時間と関連して指導する
			一年生で 学んだ 漢字①	-	・①②③をまとめて扱う
	書写		鉛筆の持ち方と姿勢	1	・正しい姿勢や筆記具の持ち方を意識させる
3	Cア 知・技①ア	二 じゅん じよに 気を つけて よみ、 つながりを 見 つけよう	すみれと あり	11	・「何がどうする」の語形に着目させ、事柄の順序を考えながら内容の大体を捉えることを中心の活動とする
4	知・技①ク 知・技②イ 知・技②ク		「言葉あそび」を しよう	1	・リズムを楽しみながら声に出して読ませる
			かたかなで 書く 言葉	2	・設問は家庭での課題とし、確認を行う
5	知・技③エ Bア 知・技①オ 知・技②ア	三 本で しら べて しょうかい しよう	図書館で 本を さがそう	8	・学校図書館等を活用し、本の並び方について理解させる ・クイズにしたい生き物について、必要な事柄を集めたり確かめたりすることを中心の活動とする
			「生きものクイズ」を 作ろう		
6	知・技①エ Aウ 知・技①ア		漢字の ひろば② なかまの言葉と 漢字	1	・設問は家庭での課題とし、確認を行う
			うれしく なる 言葉	4	・日常生活を思い出して、うれしい言葉を出し合い、たくさんの言葉があることに気付かせる
7	Cエオ 知・技①ク 知・技②ア	四 くりかえ しに 気を つ けて、どうじよ う人物の 様子 を 読もう	きつねの おきやくさま	13	・語の中に繰り返し出てくるよく似た出来事の「同じところ」「少し違うところ」を考えながら読み、登場人物や場面の様子の移り変わりを具体的に想像することを中心の活動とする
8	知・技①オ Aアイ 知・技①イ 知・技①エ 知・技①カ		いなばの しろうさぎ	1	・教師が読み聞かせを行う
			「かんざつ発見カード」を 書こう	4	・形や大きさなどをメモに書き出し、組み立てを考えて観察発見カードを書くことを中心の活動とする。 （参考：県教委オンラインサポート動画）
			「言葉のなかまさがしゲーム」を しよう	2	・言葉にはそれぞれに名前があり、いくつかの種類があることを理解させる
			話したいな、聞きたいな、夏休みの こと	5	・話す事柄の順序を考えて話すことを中心の活動とする
			漢字のひろば③ 二つの漢字ででき ている言葉	1	・設問は家庭での課題とし、確認を行う
			一年生で 学んだ 漢字②	-	・本時で①②をまとめて扱う
9	Cエオ 知・技①ア 知・技①オ	五 したことや 言ったことか ら、登場人物の 考えを読もう	わにのおじいさんのたからもの	10	・登場人物の行動や会話に着目させ、その人物の考えを想像することを中心の活動とする ・話のおもしろいところなど、登場人物に手紙を書かせる
			はんたいのいみの言葉、にたいみの 言葉	1	・設問は家庭での課題とし、確認を行う
	書写		水筆で書く	2	・水書用筆を使った点画の運筆を意識させる
			かたかな	1	・点画の方向を意識させる
10	Bイオ 知・技①ク Bイ Cアオ 知・技②ア	六 まとまりを 考えて書こう	町の「すてき」をつたえます	9	・「はじめ・中・終わり」に何を書くのかを考え、順序に気をつけて書くことを中心の活動とする ・書いた文章を読み合い、よいところを伝え合う交流を行う
			七 しゃしんを くらべて、考え よう	この間に何があった？	2
11	書写		書き順	1	・正しい筆順で書くことと字形が整えやすいことを意識させる
			点画の方こう	4	・点画の方向を意識させる

二下					
12	Cウ 知・技(2)ア	一 じゅんじよ や様子に気をつけて読もう	さがが大きくなるまで	9	・時、場所、大きさや様子をあらわす言葉に着目させ、文章中の重要な言葉や文を選び、説明することを中心の活動とする。
	Bアオ 知・技(1)オ	二 様子をよく見て、くわしく書こう	おもしろいもの、見つけたよ	8	・お互いの文章の中に、色や形、大きさとといったくわしく書けているところを見つけることを中心の活動とする
13	Cエ 知・技(1)オ	三 だれが、どのようにかわったかを考えて読もう	◆しを読もう てんとうむし 木	1	・どちらかの詩を選び、音読させる
	Cエオ 知・技(1)ク		ないた赤おに	6	・場面の様子に着目し、登場人物がどのような出来事がきっかけで変わったのかを考えることを中心の活動とする
14	Cオカ 知・技(3)エ		「お話びじゅつかん」を作ろう	5	・設問は家庭での課題とし、確認を行う
	書写		画のつき方と交わり方/文字の中心	2	・画のつき方や交わり方、文字の中心を意識させる
15	Aアオ 知・技(2)ア	四 しつもんしたり答えたりして、話し合おう	「クラスお楽しみ会」をひらこう	7	・質問したり答えたりするときの話し型を確認し、自分の考えが伝わるように話し合うことを中心の活動とする
	Bウエ 知・技(1)ア		みじかい言葉で	4	・感動したことをみじかい言葉で書くことを中心の活動とする
16	Cアウ 知・技(2)ア	五 わかりやすくせつめいするための、くふうをたしかめよう	漢字の広場④ 漢字のつかい方と読み方	1	・設問は家庭での課題とし、確認を行う
	Bイウ 知・技(2)ア		一年生で学んだ漢字③	-	・③④をまとめて扱う
17	Cアウ 知・技(1)ア		「しかけ絵本」を作ろう	11	・説明の仕方に気をつけて読み、分かりやすく伝えるための工夫点を見つけることを中心の活動とする
	Cカ 知・技(1)オ		おもちやのせつめい書を書こう	6	・分かりやすく伝えるための工夫を使って説明書を書くことを中心の活動とする
18	Cカ 知・技(1)オ		◆しを読もう せかいじゅうの海が	1	・場面の様子を想像しながら音読することを中心の活動とする
	書写		書きぞめ	2	・書き上げた作品は、観点を定めて、互いの作品を評価し合う時間をとる
19	Cエ 知・技(1)ク	六 場面や人物の様子をくわしく読もう	かさこじぞう	10	・音読の仕方をおさえた上で、想像したことを音読劇であらわすことを中心の活動とする
	Aイ 知・技(1)イ		むかしのあそび	8	・地域のかかるたについて触れ、あいうえおで学校やクラスのカルタを作らせる
20	Aイ 知・技(1)イ		むかしのあそびをせつめいしよう	2	・主語と述語の関係を理解させる (参考：県教委オンラインサポート授業)
	知・技(1)エ		漢字の広場⑤ 同じ読み方の漢字	1	・設問は家庭での課題とし、確認を行う。
21	B 知・技(1)オ	七 じゅんじよに気をつけて書こう	こんなことができるようになったよ	11	・1年間の「書くこと」のまとめとし、児童の実態に合わせて、補強が必要と思われる指導事項に重点を置いて指導する
	知・技(1)エ		音や様子をあらわす言葉	2	・音や様子を表す擬声語や擬態語を理解させる
21	知・技(1)エ		漢字の広場⑥ 組み合わせでできている漢字	1	・設問は家庭での課題とし、確認を行う
	書写		一年生で学んだ漢字④	1	・本時で③④をまとめて扱う
21	C 知・技(1)ア	八 場面の様子や登場人物の行動に気をつけて読もう	まじめ	2	・2年生のまとめとして、学習したことを生かして、自分の名前などを書かせる
	Aエ 知・技(1)カ		アレクサンダとぜんまいねずみ	14	・1年間の「読むこと」のまとめとし、児童の実態に合わせて、補強が必要と思われる指導事項に重点を置いて指導する
			国語の学習 これまで これから	2	・1年間のまとめとして、何を学んだのかを振り返らせる

## ※時間数の精選方法（例）

### ○3領域のどの指導事項に重点を置くのかを明確にする

・複数の指導事項を万遍なく指導するのではなく、この教材では、どのような力（指導事項）を身につけさせるのかを明確にすることで、授業時間の削減が可能となります。例えば、教材「かんさつはっけんカード」では、指導事項アの「必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること」を中心に指導し、教材「おもちやのせつめい書を書こう」では、指導事項イの「事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること」を中心に指導を行います。「読むこと」、「話すこと・聞くこと」も同様です。

### ○家庭での課題として取り組ませることで、学習を補う

・言葉に関する学習に出てくる設問などは家庭での課題として取り組ませ、後日、確認を行います。「漢字の広場」については既習内容であるので、同じく家庭での課題として取り組ませたり、①②、③④をそれぞれ1時間としてまとめて扱ったりします。

### ○読書単元は学校図書館を活用し、言語活動と結びつけ、読書生活を豊かにする

・読書教材については、指導事項が【知識及び技能】（3）「我が国の言語文化に関する事項 エ」に関する事項になりますので、詳細な読みは行わないのが一般的です。読書と言語活動を結びつけ、3領域の資質・能力を向上させるのが望ましいとされます。教材「図書館で本をさがそう」「お話びじゅつかんを作ろう」の学習から、学校図書館や地域の施設を活用し、家庭での読書につなげることも可能です。

### ○書写は取り立てた指導だけではなく、「書くこと」と関連させた指導も行う

・書写の指導に関しては、小学校2学年では年間30時間程度行うものとありますが、教育出版では、原稿用紙を使って書いたり、説明書を書いたりする「書くこと」の領域の学習において、例えば原稿用紙の使い方や見やすい説明書にするための見出しや箇条書きを使った書き方といった指導事項をおさえることが可能です。（本資料では、書写に取り立てた指導を15時間（50%）で作成しています）

### ○感染症予防対策を踏まえた学習活動の工夫を行う

・教材文等の音読は、マスクをつけることや大きな声を出さないことを指示します。ペアや少数での話し合い活動も、マスクや声の大きさなどを配慮して行いますが、教室の状況や児童の実態によっては当分の間控えた方がよいでしょう。また、スピーチやプレゼンテーションなど、相手に向けて話す活動は、一定の距離をとって行います。インタビューなどのフィールドワークは、書くことの「情報の収集」と関連させるなど、単元の組み替えを行います。